

「藤本蚕業歴史館で学ぶデジタルアーキビスト養成スキル/リカレント講座」2022.12.17

「一次史料を使ったキュレーションのいざない」

上田小県近現代史研究会 小平千文

## 1. 上田小県近現代史研究会の紹介

1992年3月創設 今年で30年目

研究会の研究目的 上田自由大学が求めた「自己教育」ないし「自己改造教育」にもとづく地域社会の豊かな発展を図る研究。

研究成果を、毎年100から150頁のA5版ブックレット1冊にして発行し、地域に還元。最新のブックレット29号が12月24日発行予定。

## 2. 藤本蚕業について

①藤本蚕業の沿革については、『藤本蚕業歴史館史料目録』藤本工業株式会社 2009年「付録 藤本蚕業（蚕種）合名（樹株）会社の沿革」参照

- ・1660年代（寛文年間）、蚕種製造・販売開始 →神明講 →妙びょう連 →均業社（販売会社） →1908年、藤本蚕業合名会社 →1924年、藤本蚕業株式会社 →1940年、日本蚕糸製造株式会社に加盟 →1944年、上田・小県地域の蚕種製造は、藤本蚕業のみとなる。  
→1951年、藤本蚕種株式会社 →1966年、藤本蚕種株式会社、蚕種製造を止める。
- ・注目された蚕種 「青白種」、「信州かなす」
- ・養蚕技術書を著す 1841（天保12）年『蚕かひの学』

### ②藤本蚕業の地

- ・上田市塩尻は、1889年「明治の大合併」により、上塩尻村・下塩尻村・秋和村3村の合併により誕生した村＝塩尻村。1961年「昭和の合併」により上田市に編入した。
- ・「蚕種郷の地」（「蚕都上田」の土台を築いた地）

## 3. 藤本蚕業歴史館の開設

### ①史料整理のいきさつ

- ・藤本蚕業の佐藤一助・勇二兄弟より新津新生事務局長に史料整理の依頼がされる。
- ・佐藤さんたちは、研究会に依頼する前に、市立博物館に依頼した。その理由は、博物館には藤本蚕業を築いてきた藤本善右衛門縄葛が収集してきた国学、歌学など和本類6000余冊が「藤蘆文庫」として保管されていた事情があった。  
同家の史料は、同家史料が保管されている博物館に一括寄贈するのが好ましい

との考えによる。この依頼を受けた博物館が下見をしたところ芳しい対応にならず、逆に研究会が紹介がされた、という事情であった。

- ・2003（H15）8月から史料整理を開始（以下、『藤本蚕業歴史館史料目録』資料解説」より）
- ・この間、①藤本本家史料、②茨城県土浦関係史料の目録整理が加わる。
- ・2009年9月、目録作成完了。近世史料含め約1万2000点。
- ・同年10月1日 A4版『藤本蚕業歴史館史料目録』（530頁）発行
- ・同月3日 「藤本蚕業歴史館」（旧藤本蚕種製造会社の2階）開館、現在に至る。



## ②史料整理の仕方

### ○整理前の藤本蚕業関係史料所蔵状況

- ・2階建て蚕室棟の2階の5部屋に、段ボール箱や木箱などで保管
- ・保管状況 外壁はサッシ扉、廊下と部屋との境は敗れた障子。そのため段ボール箱や木箱などは塵埃をかぶったむき出し状態であった。  
この塵埃を掃除機を使って採る作業から始めた。複数台破損した。1か月ほどかかったのではなかったか。

### ○大きくは3分野の史料整理（担当延べ7人）

- ・藤本本家史料（近世・近代）（担当2人）
- ・藤本蚕業合名会社設立から藤本蚕種株式会社廃業までの史料（担当3人）
- ・藤本蚕業（蚕種）合名（株式）会社蒐集機関・企業・団体・研究会および文献・雑誌・紀要・新聞・営業報告書（担当2人）

### ○史料整理方針と整理作業

- ・藤本本家史料と藤本蚕業合名会社設立から藤本蚕種株式会社廃業までの史料は、それぞれの史料内容に応じた分類をした。
- ・作業時間は、月曜日から金曜日まで、昼食をはさんで1日実施した。
- ・ここでは、小平が担当した「藤本蚕業（蚕種）合名（株式）会社蒐集機関・企業・団体・研究会および文献・雑誌・紀要・新聞・営業報告書」の場合を取り上げる。

☆大分類 蚕糸業関係史料と蚕糸業外史料とに分類

☆史料内容を地域別に把握するために、国・県・上田小県の3分類

☆文献は、原則、中性紙の袋には入れない。それ以外の研究論文、新聞や雑誌、営業報告書などはすべて中性紙の袋に入れる。

☆他の分野も同様に中性紙の袋に入れる。

- 「藤本蚕業（蚕種）合名（株式）会社蒐集機関・企業・団体・研究会および文献・雑誌・紀要・新聞・営業報告書」からみた史料価値  
特に嬉しかった史料との出会いの一例
- ・上田は「蚕都上田」（silkcity「蚕糸業で栄える都」）といわれている。それを

史料で裏付けてくれる史料との出会いがあった。『蚕都新報』です。感激ひとしおでした。残念ながら創刊号の保存はみられなかった。大正9.3.1発行(第2巻第3月号)と7.25発行(第15号7月号)が保存されている。

保存されていた史料から推察すると(毎月1回、1日発行)、創刊は大正8年4月1日になる。同年5月1日は、上田市制が敷かれた日になる。市制施行とともに文字通り「蚕都上田」としての歩みを確実に裏付けることになった『蚕都新報』の発行といえよう。

- ・「蚕都上田」の繁栄が、大正デモクラシーのもとに開花した農村青年たちによる児童自由画や農民美術、「おらが村の新聞」である『時報』の発行、軍備縮小や男子普通選挙権獲得運動、「自己改造教育」をもとめて立ちあげた信濃(上田)自由大学の設立などをもたらしていくエネルギーを生むことになる。

#### ○史料が教えてくれること

ひとつの史料ではあるが、発行時の地域の様子を、私たちと同じ立場の先人の生き様を物語ってくれる当時を、知れざる現在の私たちに教えてくれる。また、民主主義を日々の生活の中に定着させようとしてさまざまな事業を立ちあげ「社会改造」(「社会変革」)を試みたそのエネルギーに学ぶことを教えてもくれる。

#### ③ 藤本蚕業歴史館の所蔵史料の活用について

- ・上田の地域は、桑栽培一蚕種一養蚕一製糸一屑繭の再生という良繭を作り、育て、製造し、再生するという一連の過程を一見することの出来る地域。

おそらく、全国の中でこのような地域はここでしかみられないのではないだろうか。所蔵史料の活用を図るために、さしあたってネットワーク体制をつくることから始められないかと思う。

藤本蚕業歴史館一笠原工業株式会社一シナノケンシ株式会社一長野県上田東高等学校一信州大学繊維学部一上田市立博物館一上田市公文書館

## 4.近現代史を捉える視点

- ・桂木視点と同じです。そのなかの「②地域、日本、世界を貫く視点の大切さ」のところで強調しておきたいことがあります。長野県史常任編纂委員を勤めさせていただいた体験から教えられたことで、一言でいえば「愛国心」なり「愛郷心」に陥らないということ。つまりは、客観的な判断ができる学びを常に怠りなくすることに心掛けたい、ということです。

史料蒐集などでいわゆる「郷土史家」と言われる方にお世話になりました。話される視点は「愛郷心」です。そのため、地域愛が全面に出され時代の波に巻き込まれていきがちです。そうならない自分づくりのために、②の視点が必要です。研究会のブックレットづくりで常に話していることです。